

拠点名：ヒューマン&テクノロジー“SHIGA”新産業創出拠点

全体構想： 医工連携による研究開発を加速させる産学官共同研究の場や試作機器などの設備を整備し、研究開発のより一層の進展と成果の実用化を行う。これにより、今までに培ってきた研究成果を具現化するため、微細加工などのものづくり技術を中心に研究開発を行う。

期待される地域活性化

“学”が有する先端研究シーズと、“産”が有する高度なものづくり技術を加え、さらに医療現場のニーズや評価が製品開発に的確に反映することにより、「質の高い医療の提供」と「活力あるものづくり産業の創出」を目指す。

主な共同研究開発課題

本拠点事業では、都市エリア事業で培った医療機器の高機能化・インテリジェント化・小型軽量化技術を更に進化させ、小規模診療所はもとより、災害現場にまで移動できる「フィールド・オンサイト診断/治療機器」の実現を目指して、可搬型デスクトップ検査機器、高機能・低侵襲な内視鏡様ロボット肢の研究開発を核に、マイクロ診断技術とマイクロ治療技術の研究開発を実施する。この事業により事業化に進める成果を創り出しクラスター形成を目指す。

立命館大学

超微量生体標本分析技術が拓く高度先端医療の研究開発

：デスクトップ型3大検査項目分析装置の開発

体腔鏡手術ロボティクス技術が拓く高度先端医療の研究開発

：視野形成用レトラクターと鉗子操作用マイクロバルーンアクチュエーターの開発

滋賀県工業技術総合センター

超微量生体標本分析技術が拓く高度先端医療の研究開発

：超微量生体分析に用いる新規分析手法の開発

提案機関： 官：滋賀県

学：立命館大学

産：社団法人滋賀経済産業協会

参画機関： 財団法人滋賀県産業支援プラザ、医工連携ものづくりネットワーク

運営体制： 事業運営委員会

委員長 前川 昭 (滋賀県商工観光労働部新産業振興課モノづくり技術振興室 室長)

副委員長 小林 邦彦 ((社)滋賀経済産業協会 局長)

副委員長 中谷 吉彦 (立命館大学 研究部 部長)

委員 小西 聡 (立命館大学工学部 教授)

委員 福井 浩司 (滋賀医科大学研究協力課 課長)

委員 坪田 年 (滋賀県工業技術総合センター 所長)

委員 山本 和好 ((公財)滋賀県産業支援プラザ ゼネラルマネージャー兼技術総括)

オブザーバー 小林 紘士 ((独)科学技術振興機構イノベーションサテライト滋賀 館長)

(平成23年3月1日 現在)

拠点事務局 滋賀県商工観光労働部新産業振興課

住所：滋賀県大津市京町4丁目1番1号

Tel.077-528-3794

拠点設置場所

立命館大学テクノコンプレクス

住所：滋賀県草津市野路東1-1-1

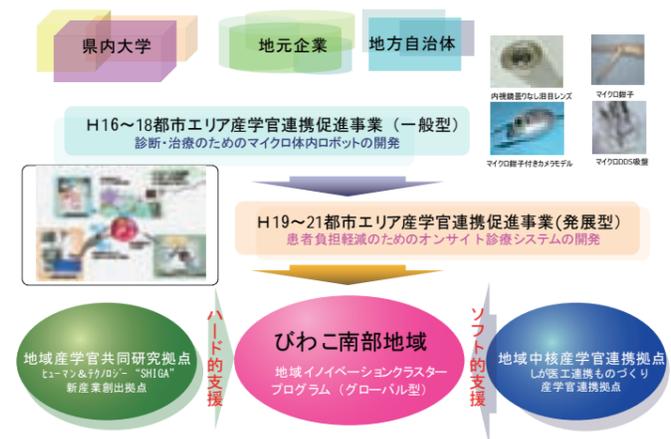
Tel.077-599-4262

滋賀県工業技術総合センター企業化支援棟

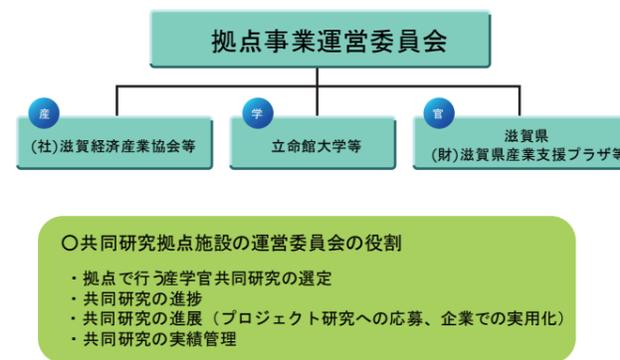
住所：滋賀県栗東市上砥山232

Tel.077-558-1500

ヒューマン&テクノロジー“SHIGA”新産業創出拠点の役割



ヒューマン&テクノロジー“SHIGA”新産業創出拠点の運営



ヒューマン&テクノロジー“SHIGA”新産業創出拠点の目的



ヒューマン&テクノロジー“SHIGA”新産業創出拠点の概要

- 地域に開かれたオープンコラボレーション拠点
- 共同研究スペースの設置
- 設置機器の開放
- 共同研究に必要な支援機能 研究支援の高度化を推進するため、参加機関の支援機能の連携によるトータルな産学官連携推進支援
- 産学官共同研究テーマの選定 実施テーマについては、県内大学や産業界で構成した運営委員会にて選定し県内から自由に応募できる体制の構築
- 設置機器類
- ・ レーザー描画装置・アライナ
- ・ ドライエッチング装置
- ・ 成膜スパッタ装置・スピナー
- ・ 金属ドライエッチング装置
- ・ 真空蒸着装置・クリーンブース
- ・ プローバ・ドラフトクリーンベンチ
- ・ バイオハザード対策用キャビネット (立命館大学テクノコンプレクス)
- ・ ラビッドプロトタイプング装置 (工業技術総合センター企業化支援棟)

